

vol.12 「寒冷地仕様車」 普通の車と何が違うの？



このコーナーではクルマに関する
為になる雑学をご紹介します。
意外と知らないことがあるかも!?

1 寒さによる不具合の防止

まず一般車と異なる点は、大きく分けると2つあり、1つ目は「寒さによる不具合防止と補強」です。寒い季節に入ると車のエンジンのかかりが悪くなることがあります。特に寒い地域ではこのようなことが起こりやすく、朝の出勤に時間がかかってしまうことがあります。こうしたことを防ぐために、寒冷地仕様の車はバッテリーのサイズが大きかったり、2つのバッテリーを搭載することが可能であったりするのです。またサイドミラーが凍り付いてしまわないようにヒーターが備わっていたり、強めの車内暖房が装備されていたり、エンジンの温度を下げるクーラント液が凍らないよう特別なものが使用されています。こうした設備のおかげで寒冷地でも安心して車を運転することができます。



↑「寒冷地」に細かな基準はありませんが、北海道・東北地方・信越地方などが主。広義では北陸地方・岐阜県北部(飛騨地方)・近畿地方と中国地方の日本海側(北近畿と山陰地方)も寒冷地にあたりとされている。

2 外装の補強

寒冷地仕様の車には寒さが及ぼす車へのダメージを避けるための工夫が施されています。まずワイパーです。ワイパーのゴムは寒さにさらされると硬化し、雨や雪を弾かなくなります。このような状況避けるために、ワイパーには特別なゴムが使用されているのです。また意外と知られていないことですが、寒冷地仕様の車の塗装は一般車と違い、特別な塗料が使用されています。その理由は寒冷地の道路にあります。寒冷地では道路が凍りやすく、事故を避けるために凍結防止剤を頻繁に撒きます。しかしこの凍結防止剤は車の塗装を溶かしてしまうことがあるのです。そのため寒冷地仕様の車には凍結防止剤の影響を受けない塗料が使用されているのです。



↑一般車の場合凍結したり曇ってしまったりすることが多いサイドミラー。寒冷地仕様車にはヒーターが備わっているものもある。

3 一般車を寒冷地で運転できないの!?

寒冷地仕様の車と一般車の違いについては理解できたでしょうか？

しかしここでひとつの疑問が生じます。

それは、一般車を寒冷地で運転できないのか?ということです。答えは「一般車でも寒冷地で運転することができる」です。しかし、極寒の地で車を運転すると様々なトラブルが生じかねません。それがいつ生じるのか、それともトラブルを経験せずに車に乗り続けることができるかは予測が付きません。またトラブルが発生した場合は修理に必要な費用を支払わなければなりませんので、出費がかさむことになります。このようなことを考えると、寒冷地仕様の車は安心して運転することができます。そのため寒冷地に長期間滞在することが決定している人は、そのための装備が整っている車を購入することがおすすめです。

寒冷地仕様の車と一般車の違いはそれほど大きなものではありませんが、これらの違いが寒冷地でのスムーズな運転に大きく貢献するのです。



↑寒冷地で一般車を運転する場合、暖機運転を心がけよう。単に窓ガラスの凍結を溶かすだけではなく、エンジン各部が適正な温度に達するまでは、負荷や回転数を抑えた走行暖機を行うのが望ましい。